

[畑・転換畑作部門]

3. 黒大豆「岡山系統1号」の枝豆収穫期を拡大できる7月播種での最適な栽植密度

[要約]

黒大豆「岡山系統1号」を7月中旬に播種すると、枝豆収穫期を慣行の6月播種より6～10日遅らせることができる。その場合の栽植密度は4.6本/m²が適当であり、慣行と同等以上の枝豆収量を得ることができ、食味評価も良好である。

[担当] 岡山県農林水産総合センター農業研究所 作物・経営研究室、環境研究室

[連絡先]電話 086-955-0275

[分類] 技術

[背景・ねらい]

本県水田農業の基幹的な作物である黒大豆は、今後も需要の増加が見込め収益性も高い枝豆の生産拡大を図り経営を安定させる必要があるが、枝豆の生産拡大には収穫労力がネックになっている。そこで、収穫期間の拡大や労力分散が図れる7月播種において、慣行播種並みの収量が確保できる最適な栽植密度を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

1. 黒大豆「岡山系統1号」は、慣行の播種時期より約2～3週間遅い7月中旬に播種すると、枝豆収穫期を6～10日遅らせることができる（表1）。
2. 7月播種栽培では、栽植密度を4.6本/m²（条間120cm、株間18cm）にすることにより、慣行の6月播種と同等以上の枝豆収量を得ることができる。その場合、遊離糖含量は慣行と同程度となり、食味評価も良好である（表1）。
3. 中耕培土時に被覆尿素の30日タイプを窒素成分で6 kg/10a程度施用すると、枝豆収量がより増加する（表1）。

[成果の活用面・留意点]

1. 本成果の枝豆収穫期は、莢厚9 mm以上の莢が全莢数の8割以上となった時期である。
2. 慣行播種区は6月17日～26日に、条間120cm、株間45cmで播種したものである。
3. 中耕培土時期は8月20日～23日である。
4. 播種時期が7月下旬以降の場合、乾燥害のため出芽不良になる恐れがある。

[具体的データ]

表1 播種時期、栽植密度及び追肥と収量・品質(2012、2013年の平均値)

	播種期 ^z	栽植密度 (本/m ²)	追肥 ^y (窒素成分)	枝豆 収穫期	枝豆収量 (莢厚9mm以上)		遊離糖 含量 ^x (g/100gFW)	食味評価 ^w (-3~+3)
					kg/10a	慣行比(%)		
慣行	6月17~ 26日	1.9		10月11~ 12日	727	100	3.80	-0.13
	7月11~ 12日	4.6		10月17~ 22日	883	121	3.66	-0.15
7月	7月11~ 12日	4.6	6kg/10a	10月17~ 22日	1035	142	3.88	-0.17
中旬	7月11~ 12日	3.1		10月17~ 22日	636	87	3.76	-0.07
	7月11~ 12日	3.1	6kg/10a	10月17~ 22日	808	111	3.74	0.28

^z 2粒播種、1本仕立て

^y 追肥はLP30を使用

^x 遊離糖含量は、果糖、ブドウ糖、ショ糖及び麦芽糖の合計値

^w 食味評価は、茹でたサンプルを直ちに冷凍し、その後一斉に解凍して同一の基準品との比較を7段階で評価

[その他]

研究課題名：「おかやま黒まめ」の高品質安定生産技術の確立

予算区分：県単

研究期間：2011~2013 年度

研究担当者：妹尾知憲、石井恵、田村尚之

関連情報等：平成 22 年度試験研究主要成果、21-22